

彙報

(二〇二二年)

四月二〇日

研究室ガイダンス

六月二五日

三重大学日本語学文学会（講演ゾフィー・

ノイツラ、富田和子）

七月九日

四年生・院生研究発表会

一〇月二九日

三年生研究発表会

十一月一九日

修論卒論事前発表会

(二〇二三年)

二月一四日

修士論文・卒業論文口述試験

三月二四日

学位授与式

北園 姫子

江戸川乱歩『芋虫』論―「物のあわれ」を中心
に―

篠部 名緒

黄表紙における桃太郎の研究

嶋崎 未琉

『本朝桜陰比事』研究―「御前」の役割を中心
に―

野村 恭平

宮澤賢治「よだかの星」における青と赤

羽賀 英美

明智小五郎像の造形とその変遷―語と家族観の
観点から―

藤原 萌映

夢野久作『死後の恋』論―探偵小説性を中心
に―

野口 杏実

『蜻蛉日記』の時姫―道綱母との贈答歌をめぐつ
て―

南 和花

『源氏物語』において鬚黒の北の方が描かれる
意義―なぜ彼女は「もののけ」にとり憑かれな
ければならなかったのか―

(二〇二二年度卒業論文題目)

高士 一輝

萩原朔太郎「猫町」論―日本近現代文学の薬物
体験―

守越 みい

『源氏物語』における雲井雁の役割

浅田 真由

太宰治「ヴィヨンの妻」の神―その位置をめ
ぐって

稲垣 邑

『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。』
論―スクールカーストとラブコメのあり方―

亀川 栞里

梶井基次郎『桜の樹の下には』論―桜・性・二
重性